ツルタチツボスミレを見に

林　　幸子

４６年５月３０日池田町の冠岳へツルタチツボスミレとハルリンドウの花を見に行く。６時半福井を車で出発、登山口が見えてくる頃冠岳へ登っていく人影が点々と見える。岐阜県へ通じる林道がつけられ冠岳直下まで車で行けるようになり楽に登山できるのでたくさんの人がおしかけるようになったという。わたしもそのひとりである。切り通しにつるされたロープにつたって登るのは二度目であるがおそろしい。やっとのおもいで登山道にでれば、アカモノの花が見られ、ナナカマド、ブナ、サイゴクミツバツツジ、ミズナラ、ウスギヨウラク、ウラジロヨウラク、イワウチワ、オオイワカガミ、リヨウブ、コシアブラ、ミノブカグマ、ヤマソテツ、ホンシャクナゲ、ハナヒリノキなどを見ながら登る。伐採されて明るくなったブナ林の中を行けばムラサキヤシオツツジも見つかるが、花がすんでいる。残念がって登っていくと残花が見えてくる。そのうちにあざやかな紅紫色の花が咲いている。更にのぼると蕾になる。何度見ても美しいつつじである。急な登りをくりかえしてやっと稜線に出る。目的のツルタチツボスミレの場所へ急ぐ、昨年あった場所に祈るような気持ちで来てみれば花はまだ咲いていない。意気込んで登って来たのにがっかりする。花のないすみれにぐちをいいたくなる。その時先を歩いていた友達が大声でスミレが咲いていることを知らせてくれる。やっぱり咲いていたと思わず走り出す。冠平への下りの道のが、うす紫の花をいっぱいつけていたのだ。裏日本の積雪地帯特産の珍しいこのスミレを見たいと長い間思っていたのがやっと採集できるのだ。ふしから根をおろし、長いつる状になっているやわらかい茎はきれやすいので丁寧に採集する。細い距、やわらかい感じのうす紫の花、夏の頃とは花があるほかはあまり葉など姿が変っていない。

今度はハルリンドウである。急いで冠平へおりて草原の道を歩くとすぐハルリンドウの青い小さい花が目につく。もう咲いている頃だろうと考えて登ってきたのがうまくあたったのだ。ロゼット状の根生葉はフデリンドウとはっきり区別ができる。採集をあとまわしにして草原を歩きまわる。大株のは１０数本の花が咲いている。草の中に点々と見える。オオバキスミレも花ざかりで量も多い。これにまじって小さいもう一種のスミレがあった。白花と赤紫の両方がある。この三種類を採集したが白と赤紫のスミレは新聞にはさみそこなってわからずじまいになってしまった。

残雪のある早春の山の風はつめたく、セーターやアノラックを出して着る。昼食をすませて冠岳頂上へ登るのに岩場を行くことにした。けわしくて女が登る所ではなかったが、ここでほしいと思

っていたオサシダ、フジシダ、オオフジシダ、ヒロハテンナンショウなどを採集し、シヤクナゲ林の中でシヤクナゲの枝に足をすべらせ必死のおもいで岩場のやせおねへはいあがる。しばらくは足がつかれてぶるぶるふるえる。ここの岩場ではキヤラボク、ヒノキ、ヤマグルマ、オオコメツツジ、イワウチワ、オオイワカガミ、ハルリンドウ、オオバキスミレなどが見られ、湿地のおはなばたけの草本はようやく顔を出した所であったが、コバイケイソウ、カライトソウ、エゾリンドウ、イワショウブ、キンコウカなどが見られた。目的のツルタチボスミレとハルリンドウの花に堪能して下山した。

福井市旭小学校教諭

註

女教師として、家庭の主婦として多忙な中から林様ほど植物を楽しみ、植物に魅せられて、山野を跋渉する人は少ない。